

#2



35.G2831

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

RECEIVED

AUG 28 2001

Technology Center 2100

In re Application of: )  
Hiroynki AMANO ) Examiner: Not Assigned  
Application No.: 09/879,183 ) Group Art Unit: 2131  
Filed: June 13, 2001 )  
For: INFORMATION PROCESSING ) August 24, 2001  
APPARATUS FOR ADDING SENDER )  
INFORMATION TO TRANSMISSION )  
DATA AND TRANSMITTING THE )  
TRANSMISSION DATA AND CONTROL )  
METHOD THEREFOR )

Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicant hereby claims priority under the International Convention and all rights  
to which they are entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon the following Japanese Priority  
Application:

JAPAN

2000-183103

June 19, 2000.

A certified copy of the priority document is enclosed.

Applicant's undersigned attorney may be reached in our Washington, D.C. office by telephone at (202) 530-1010. All correspondence should continue to be directed to our address given below.

Respectfully submitted,

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Brian L. Klock", written over a horizontal line.

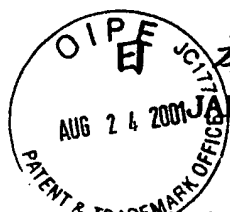
Attorney for Applicants

Brian L. Klock

Registration No. 36,570

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO  
30 Rockefeller Plaza  
New York, New York 10112-3801  
Facsimile: (212) 218-2200

BLK\cmv



本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

CF 9 2831 VS  
09/879, 183  
Hiroynki AMANO  
6-13-07

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2000年 6月19日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2000-183103

出 願 人  
Applicant(s):

キヤノン株式会社

RECEIVED

AUG 28 2001

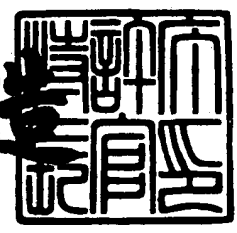
Technology Center 2100

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 7月 3日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3062245

【書類名】 特許願

【整理番号】 4146087

【提出日】 平成12年 6月19日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 情報処理装置及びその制御方法ならびにそれらを記憶する記憶媒体

【請求項の数】 21

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社  
内

【氏名】 天野 博之

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【電話番号】 03-3758-2111

【代理人】

【識別番号】 100090538

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社  
内

【弁理士】

【氏名又は名称】 西山 恵三

【電話番号】 03-3758-2111

【選任した代理人】

【識別番号】 100096965

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会  
社内

【弁理士】

【氏名又は名称】 内尾 裕一

【電話番号】 03-3758-2111

【選任した代理人】

【識別番号】 100110009

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子 3 丁目 3 0 番 2 号キャノン株式会  
社内

【弁理士】

【氏名又は名称】 青木 康

【電話番号】 03-3758-2111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011224

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9908388

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置及びその制御方法ならびにそれらを記憶する記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 情報処理装置において、

原稿を送信する際に、前記情報処理装置のユーザを特定する情報を用いて認証を行う認証手段と、

前記認証手段の認証結果により、前記認証手段による認証に使用されたユーザを特定する情報に対応する送信者情報を自動的に前記原稿に付加して送信する送信手段を有することを特徴とする通信装置。

【請求項 2】 請求項 1 において、

前記送信手段は、前記原稿のカバーページに前記送信者情報を付加して送信することを特徴とする通信装置。

【請求項 3】 請求項 2 において、

前記カバーページは予め前記情報処理装置に登録されていて、

前記送信手段は、前記カバーページを原稿に自動的に追加することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 4】 請求項 3 において、

前記予め登録されているカバーページは、前記ユーザを特定する情報毎に使用が制限されることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 5】 請求項 1 において、

前記情報処理装置は、通信装置を接続する接続手段と、

前記通信装置を使用して前記原稿を送信するためのプログラムを記憶する記憶手段を有し、

前記認証手段は、前記情報処理装置のオペレータが前記プログラムを使用する権限があるか否かを判別するための認証を行うことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 6】 請求項 1 において、

前記情報処理装置は、通信装置を接続する接続手段を有し、

前記認証手段は、前記情報処理装置のオペレータが前記通信装置に接続する権

限があるか否かを判別するための認証を行うことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 7】 請求項 5 あるいは請求項 6 において、  
前記通信装置は、ファクシミリ装置であることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 8】 請求項 5 あるいは請求項 6 において、  
前記通信装置は、ネットワーク上のサーバであることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 9】 他の情報処理装置を接続可能な情報処理装置において、  
前記他の情報処理装置のオペレータを特定するための第 1 の情報に対応させて  
第 2 の情報を記憶する記憶手段と、

前記第 1 の情報及び前記他の情報処理装置から送信された送信データを受信する  
受信手段と、

前記受信手段により受信された第 1 の情報に対応する第 2 の情報を前記送信データに  
付加して送信する送信手段を有することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 10】 請求項 9 において、  
前記送信手段は、前記送信データにカバーページを付加することを特徴とする  
情報処理装置。

【請求項 11】 請求項 10 において、  
前記送信手段は、前記カバーページに前記第 2 の情報を付加することを特徴とする  
情報処理装置。

【請求項 12】 請求項 10 において、  
前記受信手段は、カバーページを特定する第 3 の情報の受信も行い、  
前記送信手段は、前記第 3 の情報に応じたカバーページを付加することを特徴  
とする情報処理。

【請求項 13】 通信装置を接続可能な情報処理装置において、  
前記通信装置を用いてデータを送信する権限を、前記情報処理装置のオペレー  
タが有するか否かを判別する判別手段と、

前記判別手段による判別に応じて、前記通信装置が送信するデータを前記通信  
装置に送信する送信手段を有することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 14】 請求項 13 において、

前記情報処理装置は、前記通信装置を用いてデータを送信するためのプログラムを記憶する記憶手段を有し、

前記判別手段は、前記記憶手段に記憶されているプログラムを使用するための権限が、前記情報処理装置のオペレータが有するか否かの判別を行い、

前記送信手段は、前記判別手段による判別に応じて、前記プログラムを使用して、前記通信装置が送信するデータを前記通信装置に送信することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 5】 請求項 1 3 において、

前記通信装置は、ネットワークを管理する管理装置を介して接続し、

前記判別手段は、前記管理装置からの情報に基づいて、前記判別を行うことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 1 6】 情報処理装置の制御方法において、

原稿を送信する際に、前記情報処理装置のユーザを特定する情報を用いて認証を行う認証工程と、

前記認証工程の認証結果により、前記認証工程における認証に使用されたユーザを特定する情報に対応する送信者情報を自動的に前記原稿に付加して送信する送信工程を有することを特徴とする通信装置の制御方法。

【請求項 1 7】 他の情報処理装置を接続可能な情報処理装置の制御方法において、

前記他の情報処理装置のオペレータを特定するための第 1 の情報に対応させて第 2 の情報をメモリに記憶する記憶工程と、

前記第 1 の情報及び前記他の情報処理装置から送信された送信データを受信する受信工程と、

前記受信工程において受信された第 1 の情報に対応する第 2 の情報を前記送信データに付加して送信する送信工程を有することを特徴とする情報処理装置の制御方法。

【請求項 1 8】 通信装置を接続可能な情報処理装置の制御方法において、

前記通信装置を用いてデータを送信する権限を、前記情報処理装置のオペレータが有するか否かを判別する判別工程と、



前記判別工程における判別に応じて、前記通信装置が送信するデータを前記通信装置に送信する送信工程を有することを特徴とする情報処理装置の制御方法。

【請求項 1 9】 コンピュータにより読み取り可能な情報処理装置を制御するためのプログラムを記憶する記憶媒体において、

前記情報処理装置が原稿を送信する際に、前記情報処理装置のユーザを特定する情報を用いて認証を行う認証工程と、

前記認証工程の認証結果により、前記認証工程における認証に使用されたユーザを特定する情報に対応する送信者情報を自動的に前記原稿に付加して送信する送信工程を有するプログラムを記憶することを特徴とする記憶媒体。

【請求項 2 0】 コンピュータにより読み取り可能であり、他の情報処理装置を接続可能な情報処理装置を制御するためのプログラムを記憶する記憶媒体において、

前記他の情報処理装置のオペレータを特定するための第 1 の情報に対応させて第 2 の情報をメモリに記憶する記憶工程と、

前記第 1 の情報及び前記情報処理装置から送信された送信データを受信する受信工程と、

前記受信工程において受信された第 1 の情報に対応する第 2 の情報を前記送信データに付加して送信する送信工程を有するプログラムを記憶することを特徴とする記憶媒体。

【請求項 2 1】 コンピュータにより読み取り可能であり、通信装置を接続可能な情報処理装置を制御するためのプログラムを記憶する記憶媒体において、

前記通信装置を用いてデータを送信する権限を、前記情報処理装置のオペレータが有するか否かを判別する判別工程と、

前記判別工程における判別に応じて、前記通信装置が送信するデータを前記通信装置に送信する送信工程を有するプログラムを記憶することを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報処理装置及び管理装置及びそれらの制御方法ならびにそれらを記憶する記憶媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、複数のパーソナルコンピュータ等の情報処理装置が接続されるネットワーク上で、ファクシミリ装置（FAX）を共有するシステムがある。

【0003】

このようなシステムでは、各情報処理装置にFAXを使用するためのFAXドライバをインストールし、そのFAXドライバを起動させてからFAXに送信指示等を行う。

【0004】

また、各情報処理装置にインストールされたFAXドライバには、FAX送信時に送信画像に添付するカバーページを複数種類登録することができ、送信者がFAXドライバ起動後にカバーページを選択すると、選択されたカバーページが自動的に送信画像の先頭ページに添付されて送信される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記ファクシミリ装置の使用については、何の使用制限も持たないため、誰でもネットワーク上のファクシミリ装置を自由に使えてしまっていた。

【0006】

また、FAXドライバには、企業名やその中の部署名付きのカバーページが登録されるため、ファクシミリ受信者には、大まかな送信元は判断できたが、個人を特定することはできなかった。

【0007】

また、個人毎の署名が付いているカバーページを登録することもできるが、個人毎にカバーページを登録すると、登録されたカバーページの数が多くなり、カバーページの選択が非常に面倒になってしまう。また、選択間違いも多くなってしまう。

【 0 0 0 8 】

また、登録されているカバーページは誰からも選択できるので、他人を装ったカバーページで F A X 送信することができ、受信者はカバーページに送信者の署名があっても、それが本当にその本人によって署名されたものか、また本人によって付けられたカバーページかは判定できず、F A X 送信におけるセキュリティがあいまいなのが現状であった。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記問題を鑑みてなされたものであり、共有して使用される通信装置の使用制限を設けることである。

【 0 0 1 0 】

また、本発明の他の目的は、他人になりすまされて、原稿等のデータが送信されてしまうことを防止することである。

【 0 0 1 1 】

そして本発明は上記目的を達成するために、情報処理装置において、原稿を送信する際に、前記情報処理装置のユーザを特定する情報を用いて認証を行う認証手段と、前記認証手段の認証結果により、前記認証手段による認証に使用されたユーザを特定する情報に対応する送信者情報を自動的に前記原稿に付加して送信する送信手段を有することを特徴とする通信装置及びその制御方法及びその制御を行うプログラムを記憶する記憶媒体を提供する。

【 0 0 1 2 】

また、他の情報処理装置を接続可能な情報処理装置において、前記他の情報処理装置のオペレータを特定するための第 1 の情報に対応させて第 2 の情報を記憶する記憶手段と、前記第 1 の情報及び前記他の情報処理装置から送信された送信データを受信する受信手段と、前記受信手段により受信された第 1 の情報に対応する第 2 の情報を前記送信データに付加して送信する送信手段を有することを特徴とする情報処理装置及びその制御方法及び制御を行うプログラムを記憶する記憶媒体を提供する。

【 0 0 1 3 】

また、通信装置を接続可能な情報処理装置において、前記通信装置を用いてデータを送信する権限を、前記情報処理装置のオペレータが有するか否かを判別する判別手段と、前記判別手段における判別に応じて、前記通信装置が送信するデータを前記通信装置に送信する送信手段を有することを特徴とする情報処理装置及びその制御方法及びその制御を行うプログラムを記憶する記憶媒体を提供する。

## 【 0 0 1 4 】

## 【発明の実施の形態】

## (実施例 1)

次に発明の実施例 1 について説明する。

## 【 0 0 1 5 】

図 1 は、本実施例にかかる基本的な構成を示すブロック図である。

## 【 0 0 1 6 】

図 1 において 1 は CPU、即ち中央処理装置であり、本装置全体の制御及び演算処理を行う。2 は RAM、即ちランダムアクセスメモリであり、処理毎にそれぞれのプログラム及びデータがロードされ、実行される領域である。3 は ROM、即ち読み出し専用メモリであり、システム制御プログラムや、フォントデータなどの記憶領域である。4 は KBC、即ちキーボード制御部であり、キーボード 5 (KB) からのキー入力によりデータを受け取り CPU 1 へ伝達する。6 は PRTC、即ちプリンタ制御部であり、プリンタ装置 7 (PRT) を制御するためのものである。プリンタ装置 7 は、レーザービームプリンタ、インクジェットプリンタなどである。8 は FAXC、即ちファクシミリ制御部であり、ファクシミリ装置 9 (FAX) を制御する。なお、ファクシミリ装置 9 はネットワークを介して接続されているものとする。

## 【 0 0 1 7 】

10 は CRTC、即ちディスプレイ制御部であり、ディスプレイ装置 11 (CRT) への表示制御を行う。12 は DKC、即ちディスク制御部であり、データ伝送などの制御を行うものである。13 は FD (フロッピーディスク装置) あるいは HD (ハードディスク装置) あるいは CD (CDROM) などの外部記憶装置

であり、プログラム及びデータを記憶させておき、実行時必要に応じて参照またはRAM 2へロードする。14はシステムバスであり、上述の構成要素間におけるデータ転送の通路となるべきものである。

## 【0018】

本装置は、基本I/O（入出力）プログラム、OS（オペレーティングシステム）、及び以下に説明するFAXセキュリティ制御機能を持つFAXドライバプログラムをCPU1が実行することにより動作する。

## 【0019】

基本I/OプログラムはROM3に記憶されており、OSはHD13に書き込まれている。そして本装置の電源がONにされたとき、基本I/Oプログラム中のIPL（イニシャルプログラムローディング）機能によりHD13からOSがRAM2に読み込まれ、OSの動作が開始される。

## 【0020】

本実施例では、FAXセキュリティ制御機能を持つFAXドライバプログラムおよび関連データは図2のようにFD13、またはCDROM13中に記録されており、このFD13またはCD-ROM13に記録されたFAXセキュリティ制御機能を持つFAXドライバプログラムおよび関連データは図3に示すように、FDドライブまたはCD-ROMドライブを通じて、本装置のHD13にインストールする事ができる。この場合FD13またはCD-ROM13をFDドライブまたはCD-ROMドライブにセットすると、OS及び基本I/Oプログラムの制御のもとにFAXドライバプログラム及び関連データがFD13またはCD-ROM13から読み出され、HD13にインストールされて動作可能となる。

## 【0021】

図4はFAXセキュリティ制御機能を持つFAXドライバプログラムがHD13にインストールされ実行可能になった状態のメモリマップを示す。

## 【0022】

図5は本実施例におけるネットワークシステムの例を示した図である。図5において、情報処理装置A～EはLANに接続され、ファクシミリ装置G（FAX

)を共有して使用することができる。

【0023】

また、ファクシミリ装置Gを使用する際には、情報処理装置にインストールされたFAXドライバを起動して、FAXドライバからファクシミリ装置Gに送信指示を行い、公衆網にファクシミリ通信することができる。

【0024】

なお、本実施例では、1つの情報処理装置を複数のユーザが使用することができ、各情報処理装置にインストールされたFAXドライバを起動する毎にユーザを確定するための認証を行い、確定されたユーザが登録した送信者名称をカバーページに記載し、そのカバーページを情報処理装置で作成した送信画像の先頭ページに追加して送信する。

【0025】

図6に本実施例のユーザ登録処理とカバーページ登録処理を説明するためのフローチャートを示す。尚、以下の説明は、CPU1がHD13に記憶されているプログラムを読み出して実行するものとする。

【0026】

図6において、情報処理装置のユーザがKB5の操作等によりFAXドライバの起動操作が行われると、CPU1はHD13にインストールされているFAXドライバを起動する。FAXドライバが起動されると、ステップS601、ステップS605でユーザ登録かカバーページ登録かの選択を行う。ユーザ登録が選択されると、ステップS602で、情報処理装置を使用しているユーザの認証を行うためのユーザ名の登録を行い、ステップS603でパスワードの登録を行う。

【0027】

また、ステップS604でカバーページに記載する送信者名の登録を行う。登録されたユーザ名、パスワード、送信者名は、図7に示すように情報処理装置のFAXドライバに登録される。

【0028】

また、ステップS605でカバーページの登録が選択された場合は、情報処理

装置で作成されたカバーページを登録する。尚、登録するカバーページをユーザが作成する際には、図 2 3 の F A X 送信毎にユーザが宛先名を入力するための宛先領域 A、ステップ S 6 0 4 で登録された送信者名が F A X ドライバにより自動的に記載される送信者名領域 B、F A X 送信毎にユーザが送信内容を入力するための送信内容領域 C 等を指定する必要がある。また、本実施例においては、宛先領域 A、送信内容領域 C は必須ではないが、送信者名領域 B は必ず指定しなければならない。

## 【 0 0 2 9 】

また、ステップ S 6 0 5 でカバーページの登録が選択されなかった場合は、ファクシミリ送信のために F A X ドライバが起動されたとして後述するファクシミリ送信処理を行う。

## 【 0 0 3 0 】

尚、図 6 の説明では F A X ドライバ起動時にユーザの登録を行うように説明したが、F A X ドライバインストール時に、ユーザ登録が行えるようにしても良い。

## 【 0 0 3 1 】

図 8 は本実施例の情報処理装置の C P U 1 が H D 1 3 に記憶されているプログラムに従って実行するファクシミリ送信時の手順を示したフローチャートである。

## 【 0 0 3 2 】

図 8 において、情報処理装置のユーザにより作成された文書（原稿）を出力するデバイスとして、F A X が指定されると、F A X ドライバが起動される。F A X ドライバが起動すると、ステップ S 8 0 1 で、F A X ドライバよりドライバ使用のための認証を求められる。この時求められるユーザ名とパスワードは、図 6 で登録されたユーザ名とパスワードであり、情報処理装置に入力されたユーザ名とパスワードを F A X ドライバに登録されているユーザ名とパスワードと照合することにより行われる。また、ユーザ名とパスワードは、情報処理装置へのログオン名とそのパスワード、またはネットワーク接続のためのユーザ名とパスワードを F A X ドライバが自動的に登録するようにしても良い。この場合、例えばス

テップS803の設定の際などに、少なくとも一度はユーザ名とパスワードに対応させて送信者名の登録が行う必要がある。またパスワードは、認証後変更可能とする。

#### 【0033】

ステップS801で、入力されたユーザ名とパスワードがFAXにドライバに登録されているものと一致しなかった場合、ステップS806でユーザにFAXドライバ使用不可を通知し、処理を終了する。

#### 【0034】

一致した場合は、ステップS802で、FAXドライバのユーザーインターフェースが開かれる。

#### 【0035】

このユーザーインターフェースは、図6の処理で登録されたカバーページと予めFAXドライバに登録されているカバーページが表示され、選択できるようになっている。

#### 【0036】

ステップS803では、カバーページの選択や送信先の電話番号の設定、図23の宛先領域Aや送信内容領域Cへの入力が行われる。

#### 【0037】

そして、ステップS804で原稿の送信命令が行われると、ステップS805で、認証の際に使用されたユーザ名に対応する送信者名が選択されたカバーページの送信者名領域Bに記載され、そのカバーページを原稿の先頭ページに追加して、送信先電話番号等の情報と共にファクシミリ装置Gに送信する。

#### 【0038】

なお、送信者名は、カバーページだけでなく、原稿の各ページの指定された場所に記載されるようにしても良い。この場合、ステップS803で、送信者名を記載するのはカバーページだけか、原稿の各ページにも記載するかを設定し、原稿の各ページに記載する場合は、原稿のどの領域（ヘッダやフッタ）に記載するかを設定する。

#### 【0039】



ファクシミリ装置Gは、カバーページを追加された原稿と共に受信した電話番号に発呼し、受信した原稿を公衆網を介して送信する。

【0040】

以上のように本実施例によれば、FAXドライバ起動時の認証によりカバーページや原稿に記載される送信者名が確定されるので、他人に自分の署名でファクシミリ送信されることを防止できる。

【0041】

(実施例2)

本実施例では、ユーザの認証をファクシミリ送信指示が行われてから行うようにする。尚、本実施例で使用される情報処理装置の構成やネットワーク構成は実施例1と同様なので詳細な説明は省略する。

【0042】

また、ユーザ登録処理とカバーページ登録処理も実施例1と同様である。

【0043】

図9は本実施例の情報処理装置のCPU1がHD13に記憶されているプログラムに従って実行するファクシミリ送信時の手順を示したフローチャートである。

【0044】

図9において、情報処理装置により作成された文書(原稿)を出力するデバイスとして、FAXが指定されてCPU1はFAXドライバを起動する。FAXドライバが起動すると、ステップS901でカバーページの選択や送信先の電話番号の指定等の設定を行うためのユーザインターフェースが開かれる。

【0045】

ステップS902ではカバーページの選択や送信先の電話番号の指定、図23の宛先領域A、送信内容Cへの入力等の設定が行われ、ステップS903でファクシミリ送信指示が行われると、ステップS904で情報処理装置のユーザの認証が開始される。

【0046】

この認証で求められるユーザ名とパスワードは、実施例1の図6のようにユー

ザによって登録されたユーザ名、パスワードであり、情報処理装置に入力されたユーザ名とパスワードをFAXドライバに登録されているユーザ名とパスワードと照合することにより行われる。また、ユーザ名とパスワードは、情報処理装置へのログオン名とそのパスワード、またはネットワーク接続のためのユーザ名とパスワードとする。この場合、少なくとも一度はユーザ名、パスワードに対応させて送信者名を登録する必要がある。また、パスワードは、認証後変更可能とする。

## 【0047】

ステップS904では、入力されたユーザ名、パスワードとFAXドライバに登録されているユーザ名とパスワードが一致するか否かの判断を行い、一致しない場合は、ステップS906でユーザに対してファクシミリ送信ができないことを通知し、一致した場合は、ステップS905で、認証の際に使用したユーザ名に対応した送信者名をカバーページの送信者名領域Bに自動的に記載し、そのカバーページを原稿の先頭ページに付加して送信先の電話番号等の情報と共にファクシミリ装置Gに送信する。

## 【0048】

ファクシミリ装置Gは、カバーページを追加された原稿と共に受信した電話番号に発呼し、受信した原稿を公衆網を介して送信する。

## 【0049】

尚、実施例1と同様に、送信者名は、カバーページだけでなく、原稿の各ページの指定された場所に記載されるようにしても良い。この場合、ステップS902の設定で、送信者名を記載するのはカバーページだけか、原稿の各ページにも記載するかを設定し、原稿の各ページに記載する場合は、原稿のどの領域（ヘッダやフッタ）に記載するかを設定する。

## 【0050】

以上のように本実施例によれば、FAX送信時の認証によりカバーページや原稿に記載される送信者名が確定されるので、他人に自分の署名でファクシミリ送信されることを防止できる。

## 【0051】

## (実施例3)

本実施例では、ユーザが登録したカバーページを使用できるユーザを制限できるようにする。例えば、ABC部CD課の人がカバーページを作成する場合、カバーページの送信者名が自動的に記載される発信者名領域の近くに「ABC部CD課」という文字を入れて作成し、登録しておき、ABC部CD課の人だけがそのカバーページを使えるようにしておけば、自動的に記載される送信者名は氏名だけを登録しておけば良くなる。また、他の分門の人間により「ABC部CD課」という文字が入ったカバーページを無断でされることも防止できる。

## 【0052】

以下、本実施例の詳細な動作説明を行う。尚、本実施例で使用される情報処理装置の構成やネットワーク構成は実施例1、2と同様なので詳細な説明は省略する。

## 【0053】

図10に本実施例の情報処理装置のCPU1がHD13に記憶されたプログラムに従って実行するユーザ登録処理とカバーページ登録処理を説明するためのフローチャートを示す。

## 【0054】

図10において、情報処理装置のユーザの操作によりFAXドライバが起動されると、ステップS1001、ステップS1005でユーザ登録かカバーページ登録かの選択を行う。ユーザ登録が選択されると、ステップS1002で情報処理装置のユーザの認証を行うためのユーザ名の登録を行い、ステップS1003でパスワードの登録を行う。

## 【0055】

また、ステップS1004でカバーページに記載する送信者名の登録を行う。なお、本実施例では送信者名は一つのユーザ名に対して複数登録することができ、複数登録された場合は使用する送信者名を送信時に選択できるものとする。これら登録されたユーザ名、パスワード、送信者名は、図11に示すように情報処理装置のFAXドライバに登録され、管理される。

## 【0056】

また、ステップS1005でカバーページの登録が選択された場合は、情報処理装置で作成されたカバーページ（図23）を登録し、ステップS1007でそのカバーページを使用できるユーザ名を登録する。なお、カバーページを使用できるユーザ名が登録されない場合は、全てのユーザが使用できるものとする。

## 【0057】

また、登録されたカバーページは、予めFAXドライバに登録されているカバーページと共に、図12に示すように、カバーページを特定するカバーページ番号に対応させてそのカバーページを利用できるユーザ名がFAXドライバに登録される。

## 【0058】

ステップS1005において、カバーページの登録が選択されなかった場合には、以下に説明するファクシミリ送信処理を行う。

## 【0059】

図13は本実施例の情報処理装置のCPU1がHD13に記憶されたプログラムに従って実行するファクシミリ送信時の手順を示したフローチャートである。

## 【0060】

図13において、情報処理装置のユーザにより作成された文書（原稿）を出力するデバイスとして、FAXが指定されるとCPU1はFAXドライバを起動する。FAXドライバが起動すると、ステップS1301で、FAXドライバよりドライバ使用のためのユーザ認証を求められる。この時求められるユーザ名とパスワードは、図10で登録されたユーザ名とパスワードである。また、ユーザ名とパスワードは、情報処理装置へのログオン名とそのパスワード、またはネットワーク接続のためのユーザ名とパスワードをFAXドライバが自動的に登録するようにしても良い。また、これらのパスワードは、認証後変更可能とする。

## 【0061】

ステップS1301において、情報処理装置に入力されたユーザ名とパスワードがFAXドライバに登録されているユーザ名とパスワードと一致しない場合は、ステップS1306でユーザにFAXドライバが使用できないことを通知し、処理を終了する。

【0062】

また、一致した場合は、つまり、認証された場合はステップS1302で、FAXドライバのユーザーインターフェースが開かれる。

【0063】

このユーザーインターフェースは、認証の際に使用されたユーザ名が使用できるカバーページだけが選択できるように表示され、選択できるようになっている。

【0064】

また、一つのユーザ名に複数の送信者名が登録されている場合には、そのユーザ名で利用できる送信者名も表示し、選択できるようになっている。

【0065】

ステップS1303では、認証されたユーザ名が使用できるカバーページの選択や、ユーザ名に対応して複数の送信者名が登録されている場合には使用する送信者名の選択、送信先の電話番号の設定、宛先領域A、送信内容領域Cへの入力等が行われる。

【0066】

そして、ステップS1304で原稿の送信命令が行われると、ステップS1305で、選択された送信者名が選択されたカバーページの送信者名領域Bに自動的に記載され、そのカバーページを原稿の先頭ページに追加して、送信先の電話番号等の情報と共にファクシミリ装置Gに送信する。

【0067】

ファクシミリ装置Gは、受信した電話番号に発呼し、受信した原稿を送信する。この時送信する原稿にはカバーページが追加されている。

【0068】

なお、送信者名は、カバーページだけでなく、原稿の各ページの指定された場所に記載されるようにしても良い。この場合、ステップS1303の設定で、送信者名を記載するのはカバーページだけか、原稿の各ページにも記載するかを設定し、原稿の各ページに記載する場合は、原稿のどの領域（ヘッダやフッタ）に記載するかを設定する。

## 【0069】

以上のように本実施例によれば、カバーページを使用できるユーザも制限できるので、例えば、他人が自分の部署名等が記載されているカバーページを使用する等を防止できる。

## 【0070】

## (実施例4)

本実施例では、FAX送信時に必要となる設定項目を、各ユーザー別に、サーバに登録、保管し、FAX送信時に、サーバに接続することにより、そのデータを参照、使用できるシステムの例を説明する。

## 【0071】

図14に、本実施例のネットワークの構成を示す。図14において、A～Eは、パーソナルコンピュータ等の情報処理装置である。また、Fは、ファックス装置Gの管理等を行うサーバ（以下、FAXサーバ）である。Gはファクシミリ装置であり、LAN（ローカルエリアネットワーク）や公衆網に接続する。

## 【0072】

図24は、本実施例で使用する情報処理装置の構成図である。

## 【0073】

図24において、本実施例で使用する情報処理装置は図1のファクシミリ制御部8の代わりにLAN I/F（ローカルエリアインターフェース）15があり、情報処理装置は、LAN I/Fを介してFAXサーバ16に接続する。尚、図1においては、LAN I/Fは省略してある。また、他の構成は、図1と同様なので詳細な説明は省略する。

## 【0074】

また、図25は、FAXサーバの構成図である。

## 【0075】

図25において、FAXサーバは、図1のファクシミリ制御部と同様なファクシミリ制御部8を有し、ファクシミリ装置9と接続する。また、LAN I/F（ローカルエリアインターフェース）17を有し、LAN I/Fを介して情報処理装置（PC）と接続する。

## 【 0 0 7 6 】

図 1 5 は本実施例の情報処理装置の H D 1 3 への F A X ドライバインストールの際の手順を示したフローチャートである。尚、以下の説明は、C P U 1 が H D 1 3 に記憶されているプログラムしたがって実行されるものとする。

## 【 0 0 7 7 】

図 1 5 において、F A X ドライバのインストール指示が情報処理装置の操作により行われると、F A X ドライバのインストールが開始され、ステップ S 1 5 0 1 でネットワーク（図 1 4 における L A N）上で F A X のユーザー管理を行っている F A X サーバ F へのパスを設定する。次にステップ S 1 5 0 2 で、F A X ドライバのインストールを開始したユーザが、F A X サーバ F で管理されているユーザーかどうかの認証を行う。

## 【 0 0 7 8 】

この認証は、デフォルトとして、F A X サーバへのログオン名及びパスワードが使われ、この認証により、F A X サーバへログオンされる。ステップ S 1 5 0 2 での認証で、情報処理装置のユーザが F A X サーバ F に登録されているユーザーではないと判断された場合は、ステップ S 1 5 0 4 で、サーバ管理者にユーザ名の登録をしてもらうように指示する通知を行い処理を終了する。

## 【 0 0 7 9 】

また、F A X サーバに登録されているユーザーとして認証された場合は、ステップ S 1 5 0 3 で、ユーザーデータの F A X サーバへの登録を行う。ユーザーデータの登録とは、カバーページに自動記載する送信者名の登録や、独自に作成したカバーページ（図 2 3）の登録や、アドレス帳等の登録、F A X 送信にかかわる個人データの登録である。またこのユーザーデータは、F A X サーバ内の各ユーザのワークスペースに保管され、F A X サーバへのログオンと同時に、このユーザのワークスペースに接続され、各ユーザーのデータが参照可能になる。また、この各ユーザのワークスペースに保管されたデータは、認証を得て接続した各ユーザのみが参照及び使用が可能となる。ステップ S 1 5 0 3 の登録が終了するとインストールが進みインストールが最後まで行われる。

## 【 0 0 8 0 】

尚、ステップS1503で登録された情報は、図16に示すように、FAXサーバFのハードディスク等のメモリにユーザ名、パスワードに対応させて記憶される。

#### 【0081】

また、FAXサーバに登録される送信者名は、実施例3のように、1つのユーザ名に対応させて複数登録することもできる。また、同様に、カバーページやアドレス帳も複数登録することができる。

#### 【0082】

図17は、本実施例の情報処理装置のCPUがHDに記憶されたプログラムに従って実行するファクシミリ送信時の手順を示したフローチャートである。

#### 【0083】

図17において、ユーザが情報処理装置で作成した文書を出力するデバイスとして、FAXが指定されると、FAXドライバを起動する。FAXドライバが起動すると、ステップS1701で、FAXドライバのインストール時に設定されたパスに従ってFAXサーバに接続し、ステップS1702で、FAXドライバ使用のための認証を求められる。この時求められるユーザ名とパスワードは、ネットワーク上にあるFAXサーバFに登録、管理されたユーザ名とパスワードが用いられる。ユーザ名とパスワードが一致しなかった場合は、ステップS1707で、ファクシミリ送信が出来ないことをユーザに通知し、FAXサーバとの接続を切断し、処理を終了する。またステップS1702で認証されると、ユーザ個々のデータが格納されたワークスペースに接続する。次にステップS1703で、FAXドライバのUI（ユーザインターフェース）がオープンされ、各ユーザのワークスペースに保管され、使用することが出来る各種データを用いてカバーページの選択や送信先の電話番号の設定、宛先領域A、送信内容領域Cへの入力等の各種設定が可能となる。そして、ステップS1704でカバーページの選択や送信先の電話番号の指定、宛先領域A、送信内容領域Cへ入力される情報の設定が行われ、さらに、ユーザ名に対応する送信者名が複数登録されている場合には送信者名の選択も行われる。これらの設定は、情報処理装置からFAXサーバに送信され、FAXサーバはこれらの設定に基づいたカバーページ



を作成する。ステップS1705においてFAX送信の指示が行われると、ステップS1706において、原稿をFAXサーバに送信する。FAXサーバは、作成したカバーページの送信者名領域Bに、認証時に使用されたユーザ名に対応させて記憶されている送信者名を記載し、情報処理装置から送られてきた原稿の先頭にそのカバーページを追加し、情報処理装置に設定された宛先FAX番号と共にファクシミリ装置Gより送信する。ファクシミリ装置Gは、宛先FAX番号に発呼し、原稿を送信する。

## 【0084】

尚、実施例1～3のように、送信者名はカバーページだけでなく、原稿の各ページに記載されるようにしても良い。この場合、図17のステップS1704の設定において、送信者名の記載はカバーページのみか、各ページかの設定を行う。

## 【0085】

以上のように本実施例によれば、カバーページなどのデータはFAXサーバに登録しておき、さらに、カバーページへの送信者名の記載等の処理をFAXサーバで行うので、情報処理装置の処理を軽減することができる。

## 【0086】

## (実施例5)

本実施例では、カバーページは情報処理装置に登録され、ユーザが自由に使用でき、送信者名をFAXサーバに登録するようにする。

## 【0087】

また、本実施例のネットワーク構成も実施例4と同様である(図14、図24、図25)。

## 【0088】

図18は、本実施例の情報処理装置のハードディスク13へのFAXドライバインストールの際の手順を示したフローチャートである。

## 【0089】

図18において、FAXドライバのインストール指示が情報処理装置の操作により行われると、FAXドライバのインストールが開始され、ステップS180

1でネットワーク（図14におけるLAN）上でFAXのユーザー管理を行っているFAXサーバーFへのパスを設定する。次にステップS1802で、FAXドライバのインストールを開始したユーザが、FAXサーバーFで管理されているユーザーかどうかをの認証を行う。

【0090】

ステップS1802での認証は、図15のステップS1502と同様なので詳細な説明は省略する。

【0091】

ステップS1802の認証で、情報処理装置のユーザがFAXサーバに登録されたユーザーではないと判断された場合は、ステップS1806で、サーバ管理者にユーザ登録をしてもらうよう通知し、FAXサーバを切断し、処理を終了する。

【0092】

また、FAXサーバに登録されているユーザであると判断された場合は、ステップS1803でカバーページに自動登録される送信者名をFAXサーバに登録する。ステップS1804では、インストール時に、ユーザ個人用のカバーページをFAXドライバに登録するか否かをユーザの指示により判断し、カバーページに登録する場合は、ステップS1805でユーザが作成したカバーページ（図23）をFAXドライバに登録し、インストールを終了する。

【0093】

尚、FAXサーバに登録される送信者名は、実施例3、4のように、1つのユーザ名に対応させて複数登録することもできる。

【0094】

また、インストール終了後にも、カバーページの登録は可能である。

【0095】

図19は、本実施例の情報処理装置のファクシミリ送信時の手順を示したフローチャートである。

【0096】

図19において、ユーザが情報処理装置で作成した文書を出力するデバイスと

して、FAXを指定すると、CPUはFAXドライバを起動する。FAXドライバが起動すると、ステップS1901において、FAXドライバのUI（ユーザーインターフェイス）がオープンし、FAX送信のための各種設定が可能となる。次にステップS1902で、FAXドライバに登録されているカバーページの選択、そのカバーページの宛先領域A、送信内容領域Cへの入力、送信先の電話番号の指定等のFAX送信の設定を行う。次にステップS1903で、原稿の送信命令を出す。この送信命令に伴いステップS1904において、FAXドライバのインストール時に設定されたパスに従って、FAXサーバーに接続する。次にステップS1905で、FAXサーバーで、ユーザーの認証を行うためにユーザーにより入力されたユーザー名、パスワードをFAXサーバーに送信し、FAXサーバー側でFAXサーバーに登録されているユーザーであると判断されると、ステップS1906で、FAXサーバーにFAX送信する原稿の先頭ページにステップS1902で選択されたカバーページを追加して、その原稿と共に送信先の電話番号等のFAX送信のための設定情報をFAXサーバーに送信する。また、ステップS1905において、FAXサーバー側でFAXサーバーに登録されているユーザーでないと判断された場合には、FAXサーバーから送信不可が通知されるので、ステップS1907でユーザーに送信ができないことを通知し、処理を終了する。

## 【0097】

図20は、FAXサーバー側の処理を示すフローチャートである。

## 【0098】

図20において、FAXサーバーは情報処理装置からユーザー名が送られてくると、次にステップS2001でパスワードの受信を行い、ステップS2002で、受信したパスワードがユーザー名に対応させて登録されているパスワードと一致するか否か判断する。一致しない場合は、ステップS2005で情報処理装置にFAX送信ができないことを通知する。

## 【0099】

また、受信したパスワードがユーザー名に対応させて登録されているパスワードと一致した場合はステップS2003において、情報処理装置にFAX送信ができることを通知し、FAXドライバから送られてくる、カバーページが追加され

た F A X 原稿を受信する。尚、この時、F A X 送信する送信相手の電話番号等の情報も受信する。

【0100】

ステップ S 2 0 0 4 では、受信した原稿に追加されているカバーページの送信者名領域 B に、認証時に使用されたユーザ名に対応させて記憶されている送信者名を記載し、F A X 原稿を送信先の電話番号等の情報と共にファクシミリ装置 G に送信する。

【0101】

ファクシミリ装置 G は、原稿と共に受信した電話番号に発呼し、原稿と共に受信した F A X 送信時の各種設定の情報に基づいて、受信した原稿を公衆網を介してファクシミリ送信する。

【0102】

以上のように本実施例によれば、カバーページは情報処理装置の F A X ドライバに登録されているので、各情報処理装置のユーザのみが使用でき、さらに、送信者名は F A X サーバで自動的に記載されるので、ユーザ毎の送信者名を不正に使用されることを防止できる。

【0103】

(実施例 6)

本実施例では、情報処理装置内にインストールされる F A X ドライバでユーザ管理を行うか、ネットワーク上の F A X サーバでユーザ管理を行うかを、F A X ドライバインストール時に選択できるようにする。

【0104】

つまり、情報処理装置が接続するネットワーク環境によって、ユーザ管理の方法を選択できるようにする。

【0105】

図 2 1 は、本実施例における F A X ドライバインストール時の情報処理装置の処理を示すフローチャートである。

【0106】

図 2 1 において、F A X ドライバのインストール指示が情報処理装置の操作に

より行われると、FAXドライバのインストールが開始され、ステップS2101で、ユーザー管理の方法を設定する。ユーザー管理の方法としては、次の二つが選択できる。一つは、ネットワーク上にFAXサーバーが存在し、そのサーバーにユーザー登録してユーザ管理を行う方法。二つ目は、ネットワーク上にFAXサーバーではなく、各情報処理装置のFAXドライバにユーザ登録してユーザ管理を行う方法である。各情報処理装置でユーザ管理を行う場合は、実施例1、2、3のように情報処理装置へのログオン名とパスワード、またはネットワーク接続名とパスワードによってユーザーの認証を行うこともできる。

#### 【0107】

ここで、FAXサーバーでのユーザー管理を選択した場合は、実施例4もしくは実施例5と同様の処理、即ち、図15もしくは図18の処理を行う。

#### 【0108】

ステップS2101において、情報処理装置のFAXドライバにユーザ登録する方法が選択された場合は、まず、ステップS2102からステップS2104で、ユーザ名、パスワード、送信者名の登録を行う。これらの情報は、FAXドライバに登録され、FAXドライバのインストール処理を終了する。

#### 【0109】

図22はFAX送信の流れを示すフローチャートである。ユーザが作成した文書を出力するデバイスとして、FAXを指定すると、情報処理装置のCPUはFAXドライバを起動する。次にステップS2201へ進みドライバのインストール時に設定した、ユーザー管理方法を判定する。FAXサーバーによりユーザー管理を行っている場合は、ステップS2202へ進み、情報処理装置にインストールされたFAXドライバでユーザー管理を行っている場合はステップS2208へ進む。ステップS2202で、ドライバのインストール時に設定されたパスに従ってFAXサーバーに接続し、ステップS2203でユーザーの認証を行う。この認証は、FAXサーバーに予め登録してあるユーザー名とパスワードによって行う。認証されなかった場合はユーザー名及びパスワードの入力による認証を続ける。登録されたユーザーであると認証された場合は、個々のデータが格納されたワークエリアに接続する。次にステップS2204へ移り、FAXドライ

バのUIがオープンされ各設定が可能となる。次にステップS2205へ移り、FAX送信の設定を行う。ここでは、接続したFAXサーバーに予め登録してある各データを用いて、カバーページの選択と貼り付けや、送信先等の設定を行なう。次にステップS2206へ移り、原稿の送信命令を出すと、ステップS2107へ移り、カバーページが追加された原稿がFAXサーバーに送信処理される。FAXサーバーは、この原稿を受信すると、認証に使われたユーザー名に対応する送信者名をカバーページまたは原稿の各ページの指定された場所に記載し、ファクシミリ装置を介して送信する。また、ステップS2201でユーザー管理をサーバーで行わないと判定された場合は、ステップS2208へ進み、ドライバ使用のための認証を求められる。この時求められるユーザ名とパスワードは、図21の説明で登録されたユーザー名とそのパスワードである。また、これらのパスワードは、認証後変更可能とする。ステップS2208で認証されなかった場合はユーザー名及びパスワードの入力による認証を続ける。認証された場合はステップS2209へ移り、認証された結果として、FAXドライバのユーザーインターフェースが開かれ、その後の各設定及び送信が可能となる。次にステップS2210へ移り、FAX送信のための設定を行なう。ここでは、カバーページの選択と貼り付けや、送信先の設定等の設定を行なう。次にステップS2211で原稿の送信命令を出すと、ステップS2212へ移り、自動的に認証時に使用したユーザ名に対応した送信者の氏名が自動的にカバーページまたは原稿の各ページの指定された場所に記載される。次にステップS2213へ移り、送信者が記載された原稿がファクシミリ装置に送信され、ファクシミリ装置から実際に送信される。

#### 【0110】

以上のように本実施例によれば、ネットワーク環境に応じたユーザ管理を行えるFAXドライバを提供することができる。

#### 【0111】

##### (実施例7)

本実施例では、ネットワーク上のFAXサーバーにおいてデータの保存及び、データの編集、データの再送信が可能なFAX送信システムにおける、ユーザの

認証及びセキュリティを行う。尚、システム構成としては上述した図 1 4 と同様であるので詳細な説明は省略する。

#### 【 0 1 1 2 】

図 2 6 は本実施例の情報処理装置における F A X 送信時の手順を示したフローチャートである。

#### 【 0 1 1 3 】

図 2 6 において、ユーザが情報処理装置で作成した文書を出力するデバイスとして、F A X が指定されると、F A X ドライバを起動する。F A X ドライバが起動すると、ステップ S 2 6 0 1 で、F A X ドライバのインストール時に設定されたパスに従って F A X ドライバに接続し、ステップ S 2 6 0 2 で、F A X ドライバより、ドライバ使用のための認証を求められる。この時求められるユーザ名とパスワードは、ネットワーク上にある F A X サーバ F に登録、管理されたユーザ名とパスワードであり、ユーザにより入力されたユーザ名とパスワードは F A X ドライバにより F A X サーバに送られ、F A X サーバが登録されているユーザ名とパスワードとの照合を行うことにより行われる。

#### 【 0 1 1 4 】

F A X サーバでは、情報処理装置から送られてきたユーザ名とパスワードと、F A X サーバに登録されているユーザ名とパスワードが一致すると、情報処理装置に F A X ドライバ使用の許可を通知する。ステップ S 2 6 0 2 において、情報処理装置は、F A X サーバから F A X ドライバ使用の許可が通知されない、もしくは、使用禁止が通知されると、ステップ S 2 6 1 1 で、ファクシミリ送信ができないことをユーザに通知し、処理を終了する。また、F A X サーバからドライバの使用が許可されると、F A X サーバにログオンし、ユーザ個々のデータが格納されたワークスペースに接続する。次にステップ S 2 6 0 3 で、F A X ドライバの U I (ユーザインターフェース) がオープンされ、カバーページの選択や送信先の電話番号の設定、宛先領域 A、送信内容領域 C への入力等の各種設定が可能となる。次にステップ S 2 6 0 4 で、F A X サーバに既に保存されているデータを再送信するのかどうかを判定する。このデータは、各個人データが格納されているワークスペースとは別に用意された、送信データ保存エリアに保存さ

れている。

【0115】

またこの保存された送信データには、参照及び編集が可能なユーザの登録も可能である。次にステップS2605で、保存データの確認をする。つまり、FAXサーバに既に保存されているデータの中から、参照、編集可能なデータを確認し、その中から、再送信するデータを選択する。

【0116】

またこの際、FAXサーバー内に保存されている送信データの内、参照、編集権限のあるデータのみが、ログオンした各ユーザのワークスペースで確認、選択、編集出来る。

【0117】

次にステップS2606で、再送信用に選択したデータを送信前に編集するかどうかを選択する。編集しない場合は、ステップS2608へ進む。編集する場合は、ステップS2607で選択した保存データに編集を加える。

【0118】

この際、編集した送信データを新たにサーバに保存することも、保存されていたデータに上書き保存することも可能である。

【0119】

ただし、上書き保存は、元の保存されていた送信データの製作者でなければ出来ないものとする。

【0120】

次にステップS2608では、FAXサーバより再送信するデータの読み込みを行う。そして、ステップS2609でカバーページの選択や送信先の電話番号の指定等、FAX送信に必要な情報の設定を行う。次にステップS2610においてFAX送信の指示が行われ、カバーページの送信者欄Bに、ユーザ認証時のユーザ名に対応して登録してある送信者名を自動的に入力し、カバーページが付加された原稿をFAXサーバ、もしくは、ファクシミリ装置に送信する。原稿を受信したFAXサーバ、ファクシミリ装置は情報処理装置から通知された宛先に原稿をファクシミリ送信する。尚、上記説明では送信者名は情報処理装置で自動



入力されたが、原稿が F A X サーバに送信される場合は F A X サーバで送信者名が自動入力されるようにしても良い。

【 0 1 2 1 】

以上のように本実施例によれば、サーバ上に F A X 原稿を保存しておくことができ、さらに、その原稿を編集してから送信することもできる。

【 0 1 2 2 】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、共有して使用される通信装置の使用限度を設けることができる。

【 0 1 2 3 】

また、例えば、ドライバ使用時の認証や F A X サーバに接続する際の認証に使用したユーザ名に対応した送信者名を送信原稿に付加して該原稿を送信することができるので、他人になりすまされて、原稿等のデータが送信されてしまうことを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

実施例 1 から 3 の情報処理装置の構成図である。

【図 2】

F D または C D - R O M の記録内容を示す図である。

【図 3】

F D または C D - R O M の情報処理装置の関係図である。

【図 4】

情報処理装置のハードディスクに F A X ドライバがインストールされた際の情報処理装置のメモリマップを示す図である。

【図 5】

実施例 1 から 3、6 のネットワーク構成図である。

【図 6】

実施例 1 のユーザ登録、カバーページ登録の際の処理を示すフローチャートである。

【図 7】

実施例 1 のユーザ名、パスワード、送信者名の登録概念図である。

【図 8】

実施例 1 のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 9】

実施例 2 のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 1 0】

実施例 3 のユーザ登録、カバーページ登録の際の処理を示すフローチャートである。

【図 1 1】

実施例 3 のユーザ名、パスワード、送信者名の登録概念図である。

【図 1 2】

実施例 3 のカバーページと、カバーページ毎のカバーページを使用可能ユーザの登録概念図である。

【図 1 3】

実施例 3 のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 1 4】

実施例 4 から 7 のネットワーク構成図である。

【図 1 5】

実施例 4 の F A X ドライバをインストールする際の処理を示すフローチャートである。

【図 1 6】

実施例 4 のユーザ名、パスワード、送信者名、カバーページ、アドレス帳の登録概念図である。

【図 1 7】

実施例 4 の情報処理装置のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 1 8】

実施例 5 の F A X ドライバをインストールする際の処理を示すフローチャート

である。

【図 1 9】

実施例 5 の情報処理装置のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 2 0】

実施例 5 の F A X サーバのファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 2 1】

実施例 6 の F A X ドライバをインストールする際の処理を示すフローチャートである。

【図 2 2】

実施例 7 の情報処理装置のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

【図 2 3】

実施例 1 から 7 の登録カバーページの例である。

【図 2 4】

実施例 4 から 7 の情報処理装置の構成図である。

【図 2 5】

実施例 4 から 7 の F A X サーバの構成図である。

【図 2 6】

実施例 7 のファクシミリ送信の際の処理を示すフローチャートである。

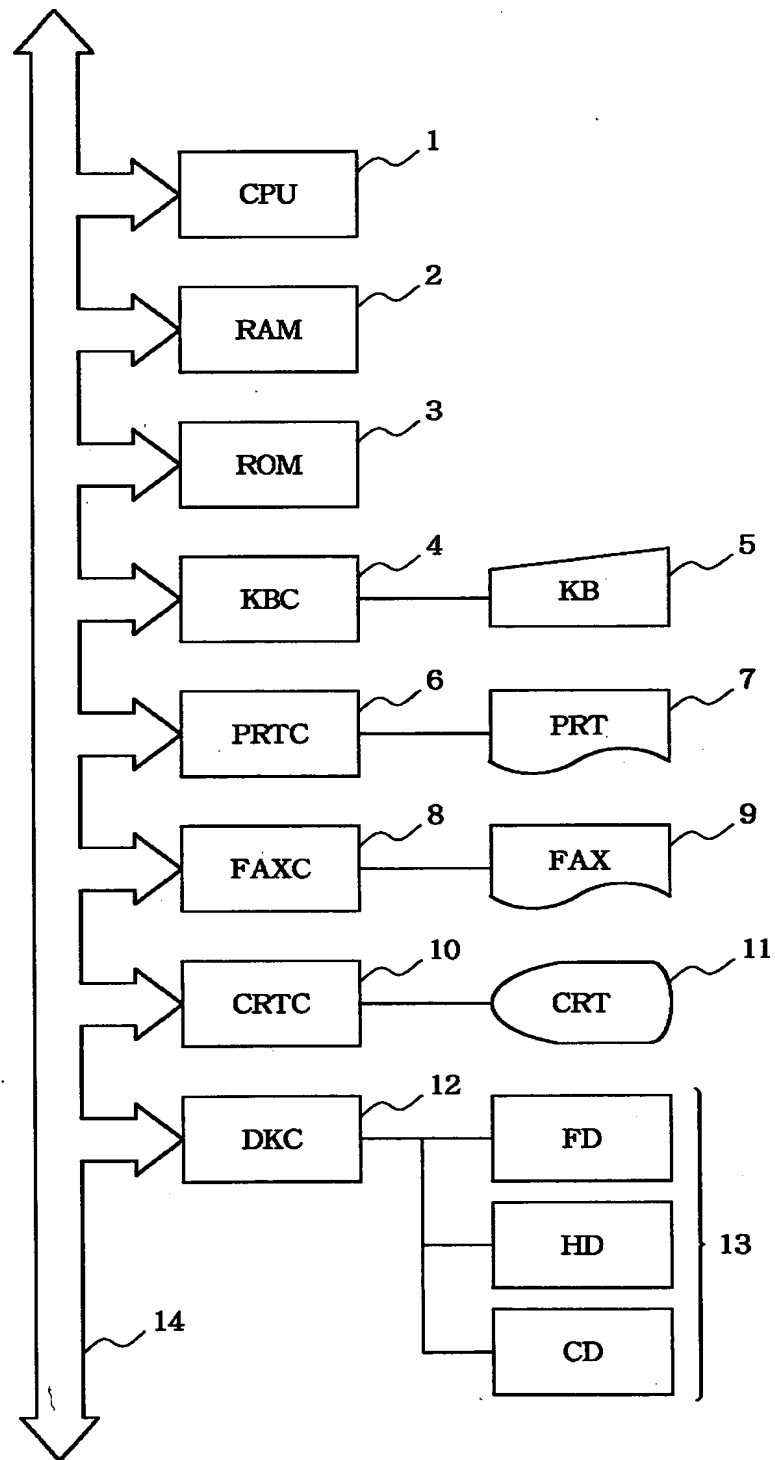
【符号の説明】

A ～ E 情報処理装置

G ファクシミリ装置

【書類名】 図面

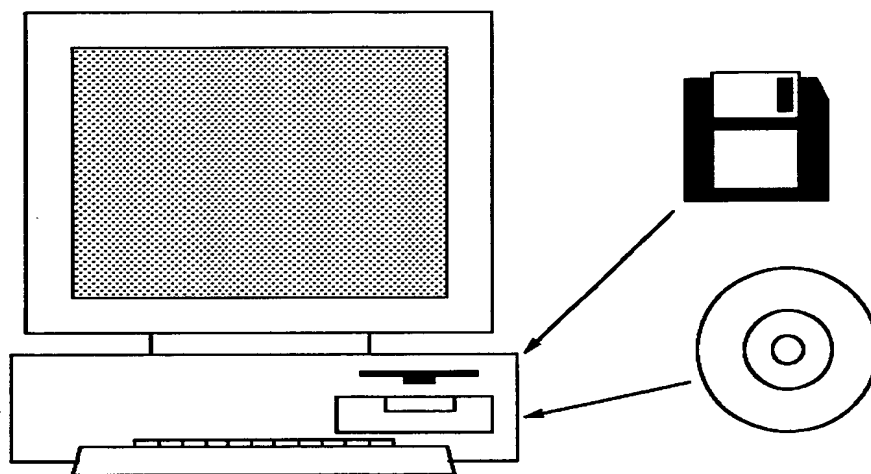
【図 1】



【図 2】

ボリューム情報
ディレクトリ情報
⋮
FAX セキュリティ制御プログラム
FAX セキュリティ制御プログラム
⋮

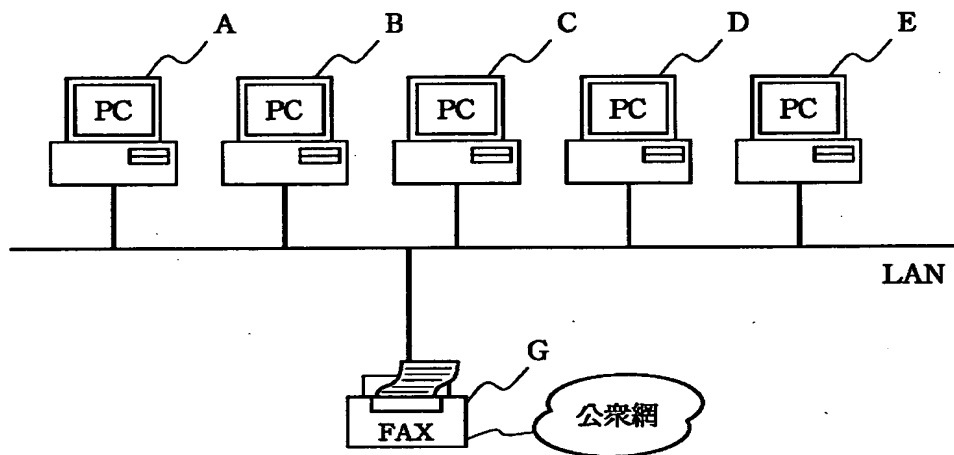
【図 3】



【図 4】

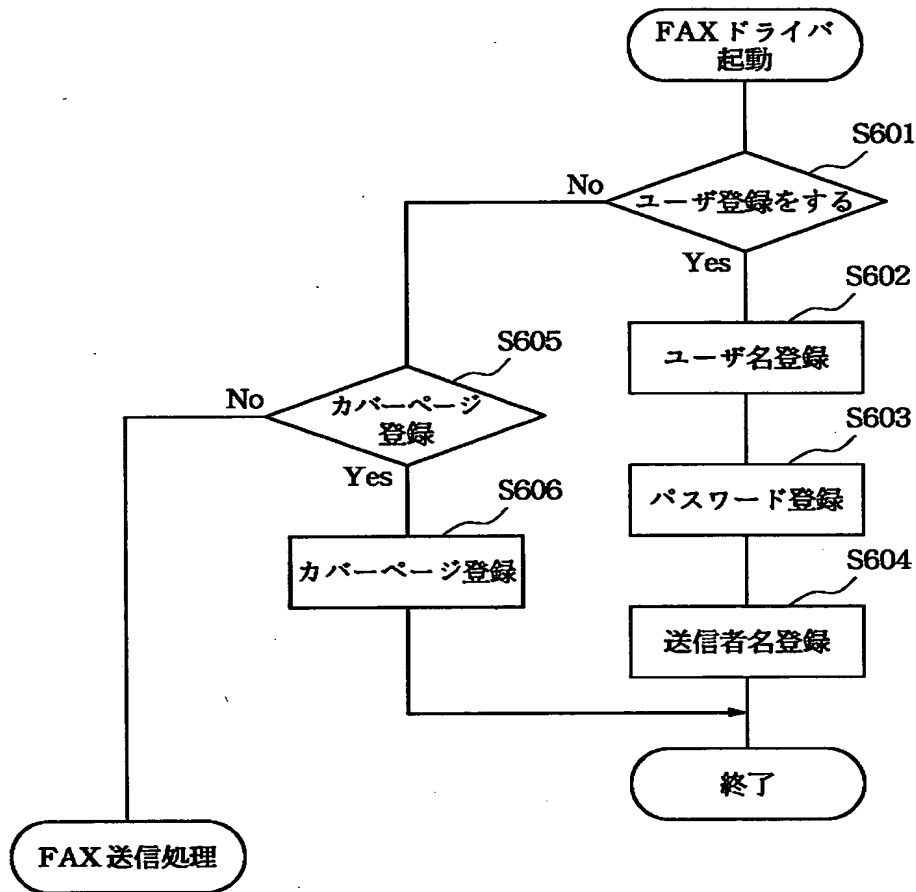
基本I/Oプログラム
OS
FAXドライバプログラム (FAXセキュリティ制御プログラム)
関連データ
ワークエリア

【図5】





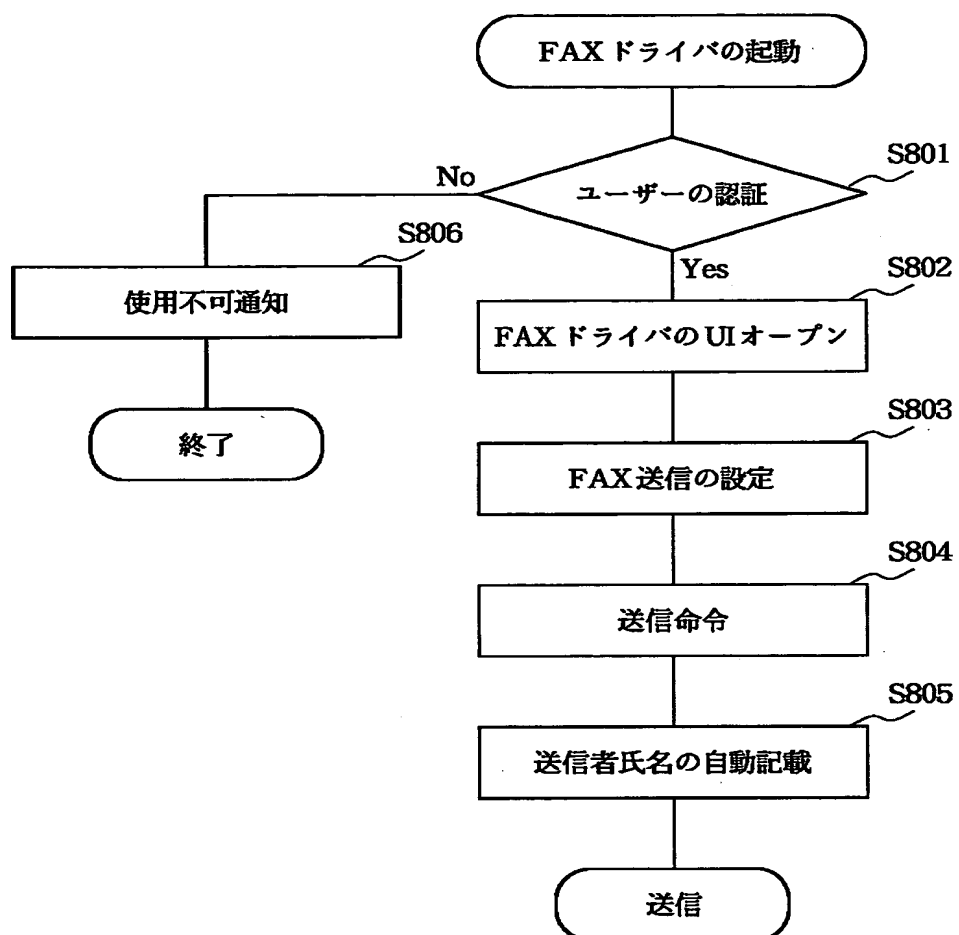
【図 6】



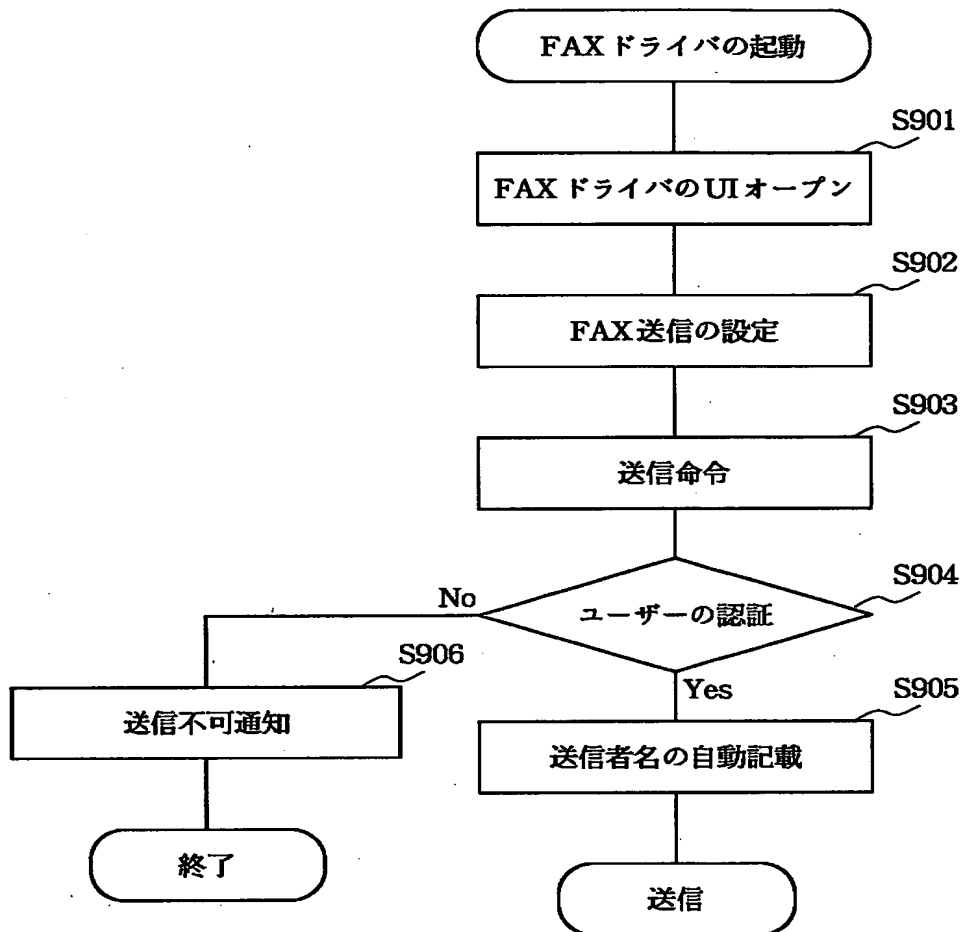
【図 7】

ユーザ名	パスワード	送信者名
suzuki	starou	鈴木太郎
yamada	aabb	山田一郎
sato	hiroshi	佐藤博
⋮	⋮	⋮

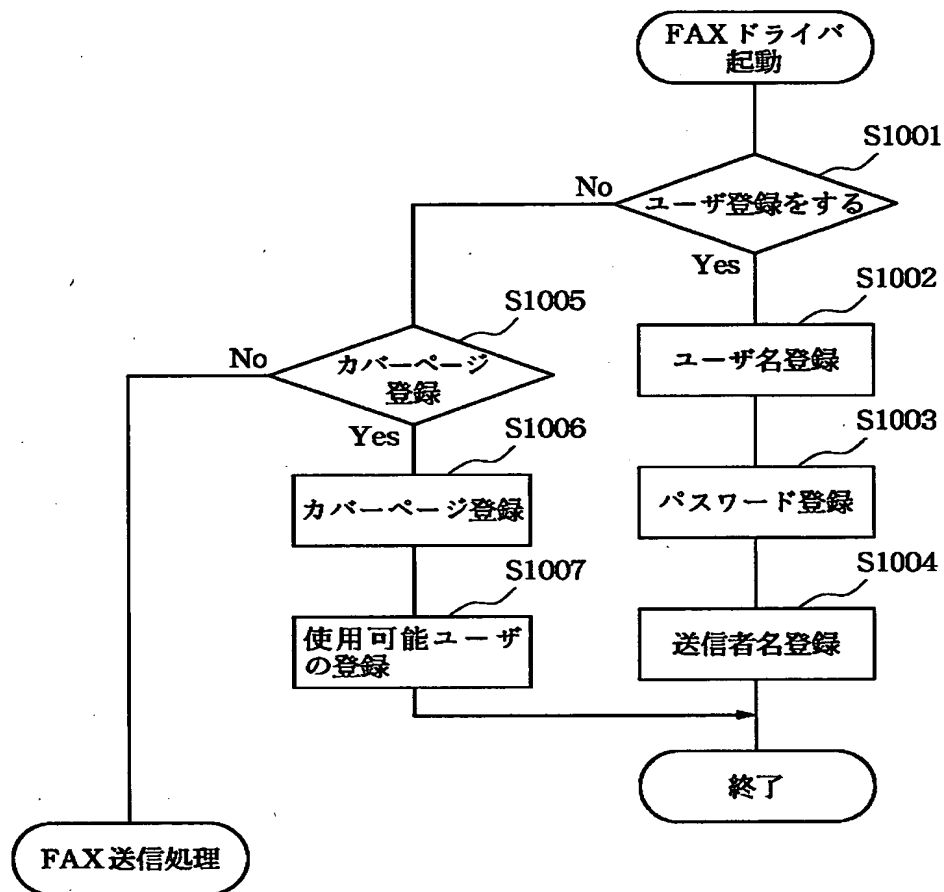
【図 8】



【図9】



【図10】



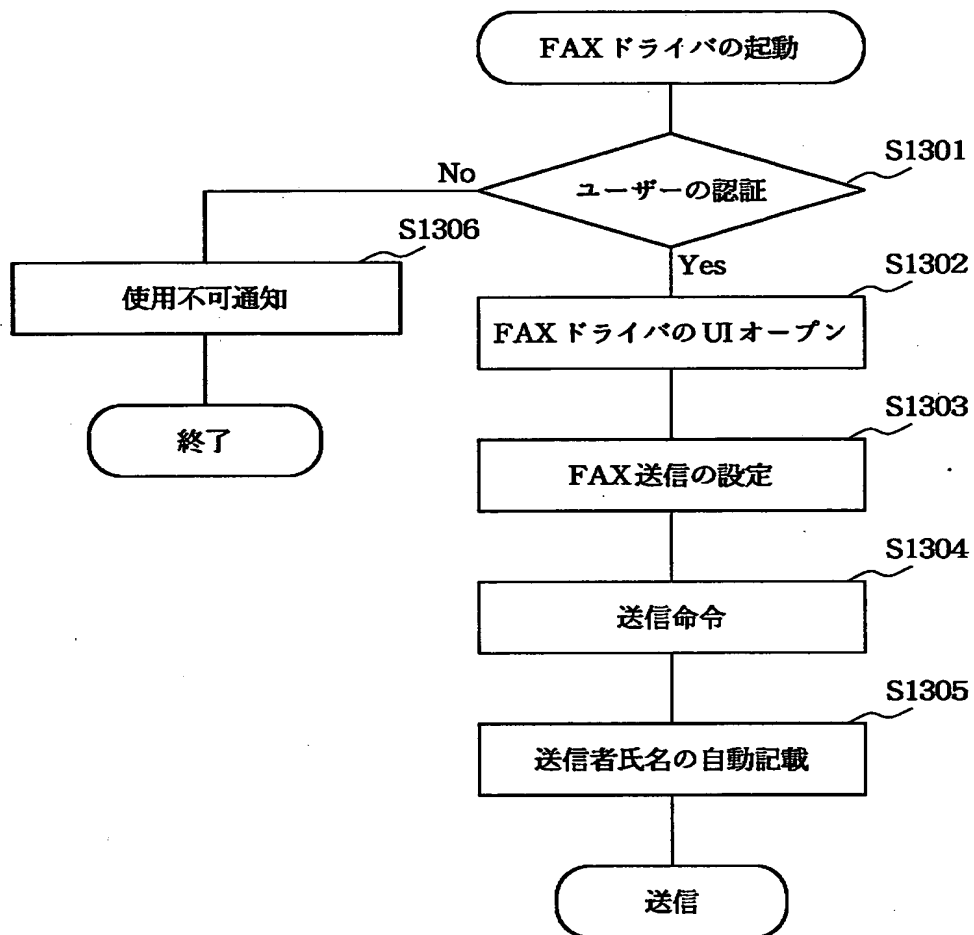
【図 1 1】

ユーザ名	パスワード	送信者名
suzuki	starou	鈴木太郎
yamada	aabb	山田一郎
sato	hiroshi	佐藤博 佐藤 (内 2233)
⋮	⋮	⋮

【図 1 2】

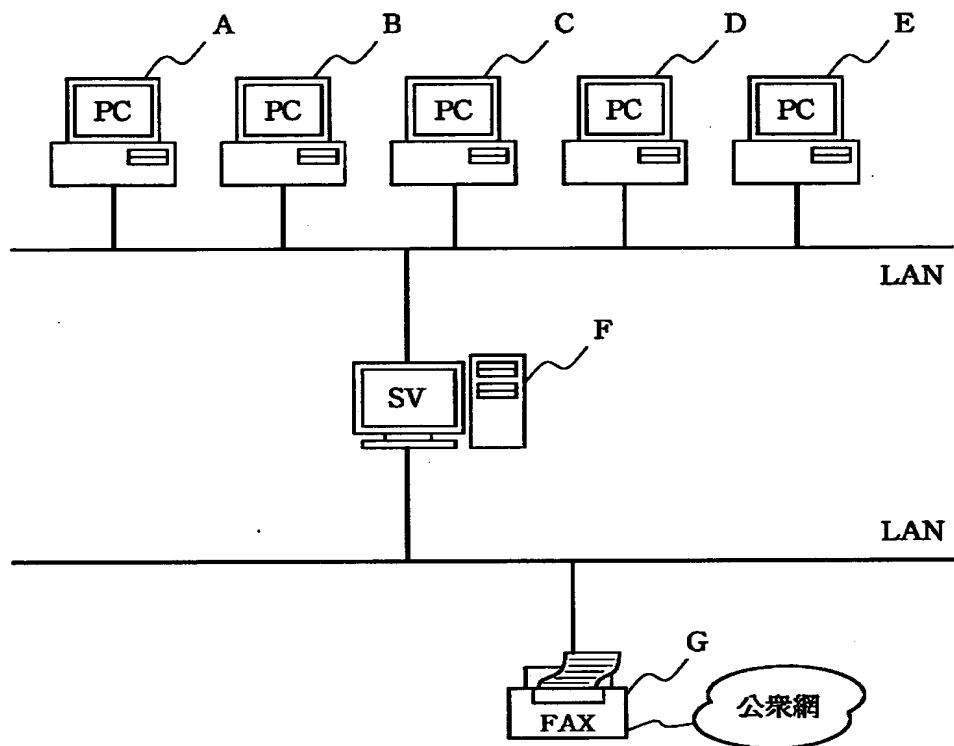
カバーページ登録番号	利用可能ユーザ名
1	suzuki
2	suzuki sato
3	suzuki mada sato
4	all user
⋮	⋮

【図13】

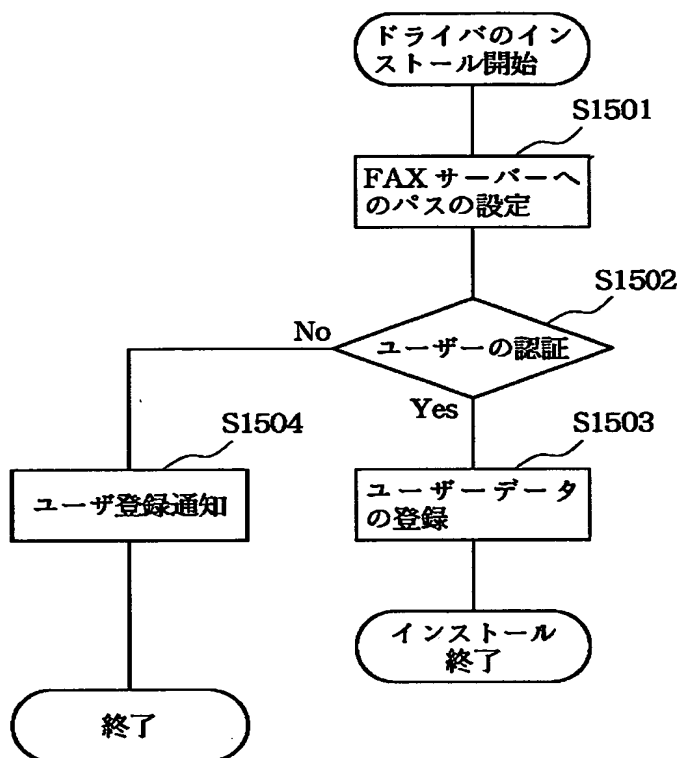




【図14】



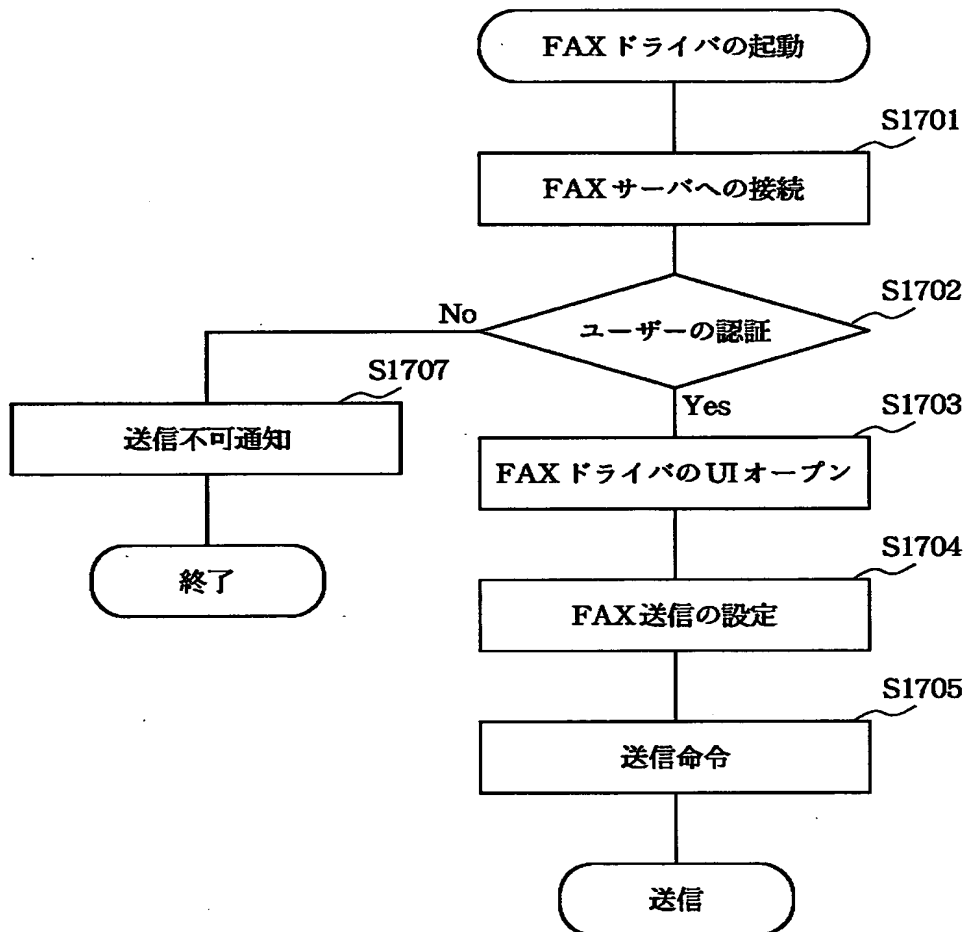
【図15】



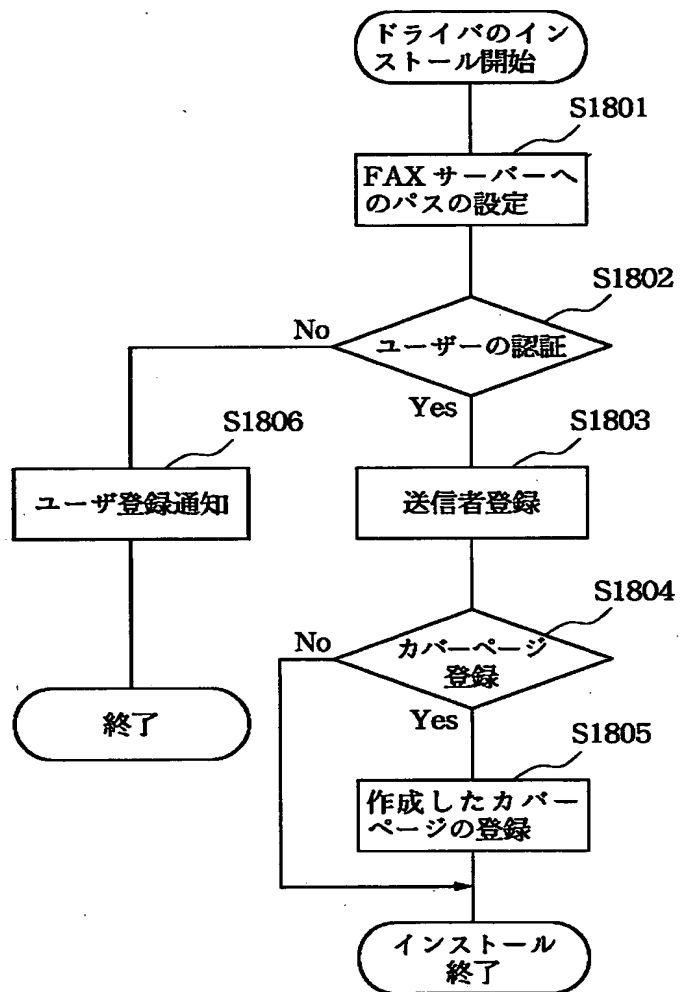
【図 16】

ユーザ名	パスワード	送信者名	カバーページ番号	アドレス帳番号
suzuki	starou	鈴木太郎	1 2 3 5	1
yamada	aabb	山田一郎	3 8	2
sato	hiroshi	佐藤博 佐藤(内2233)	2 3 6	3
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

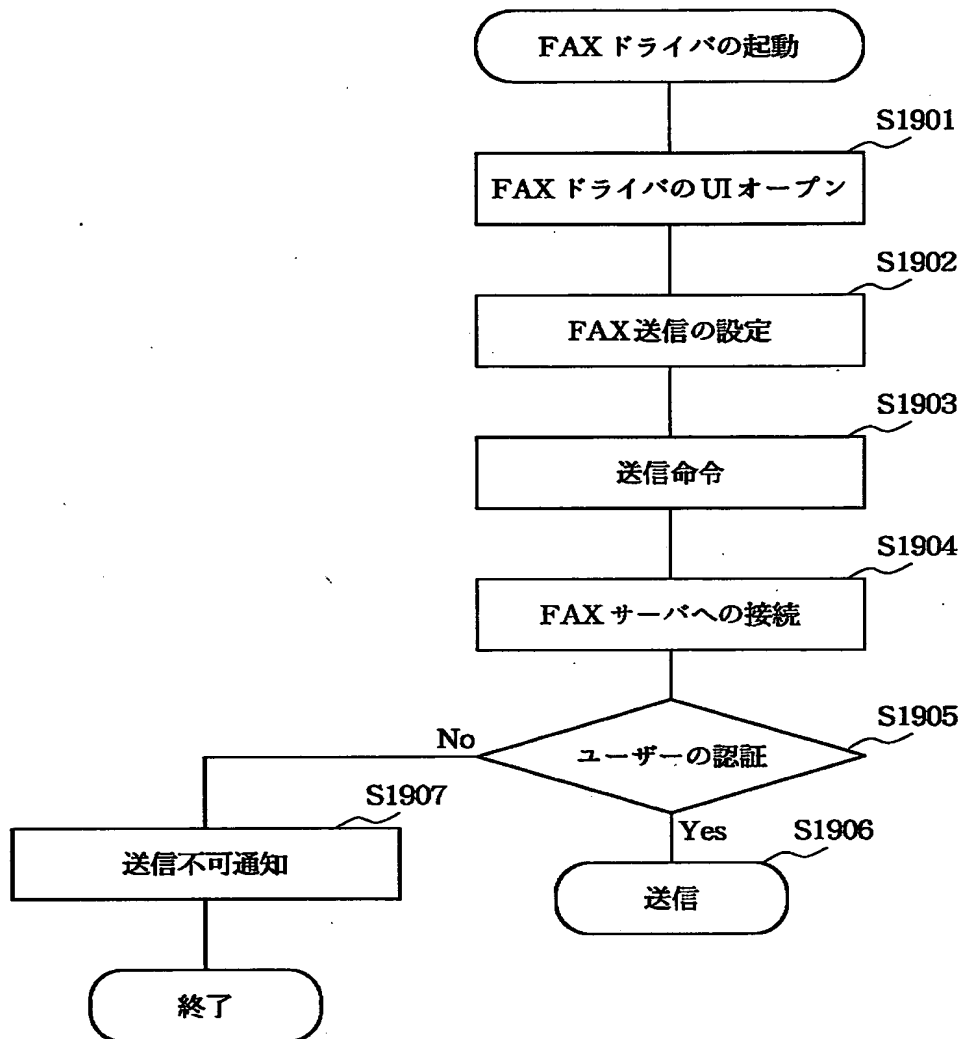
【図 17】



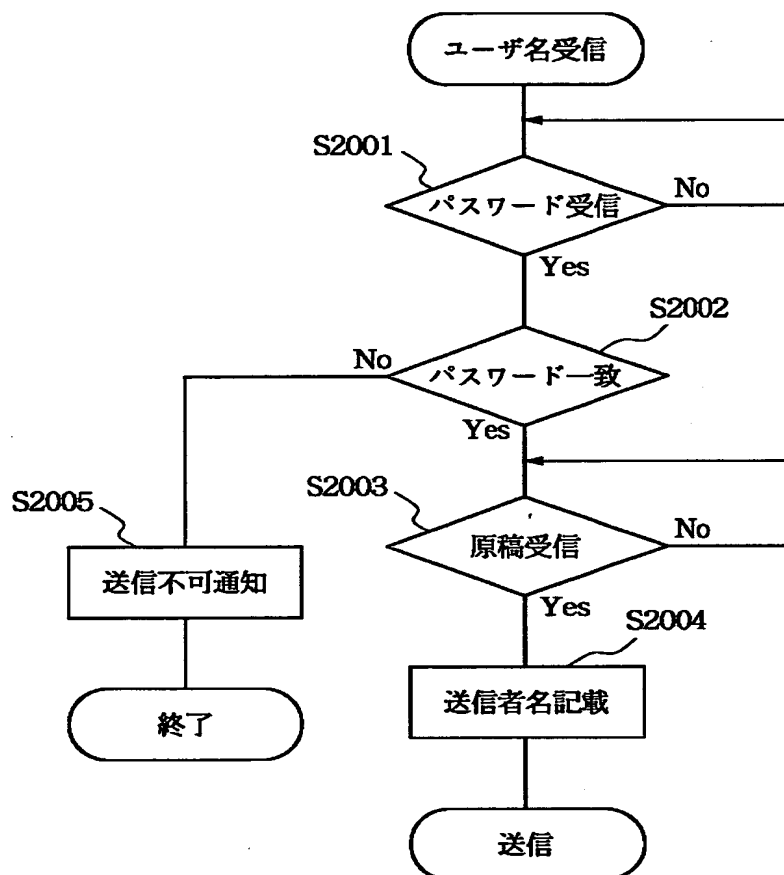
【図 18】



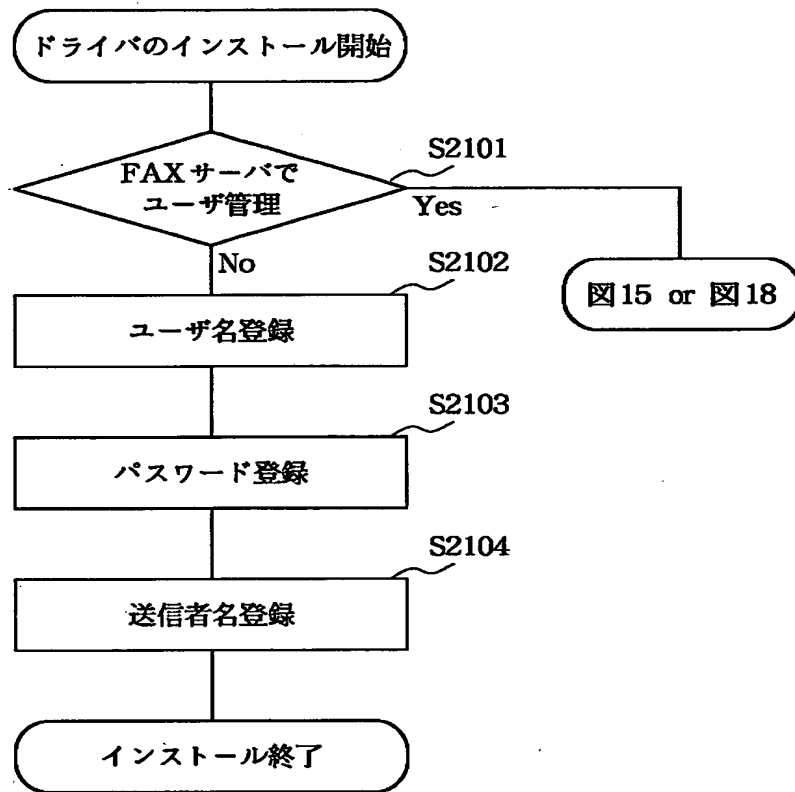
【図19】



【図20】

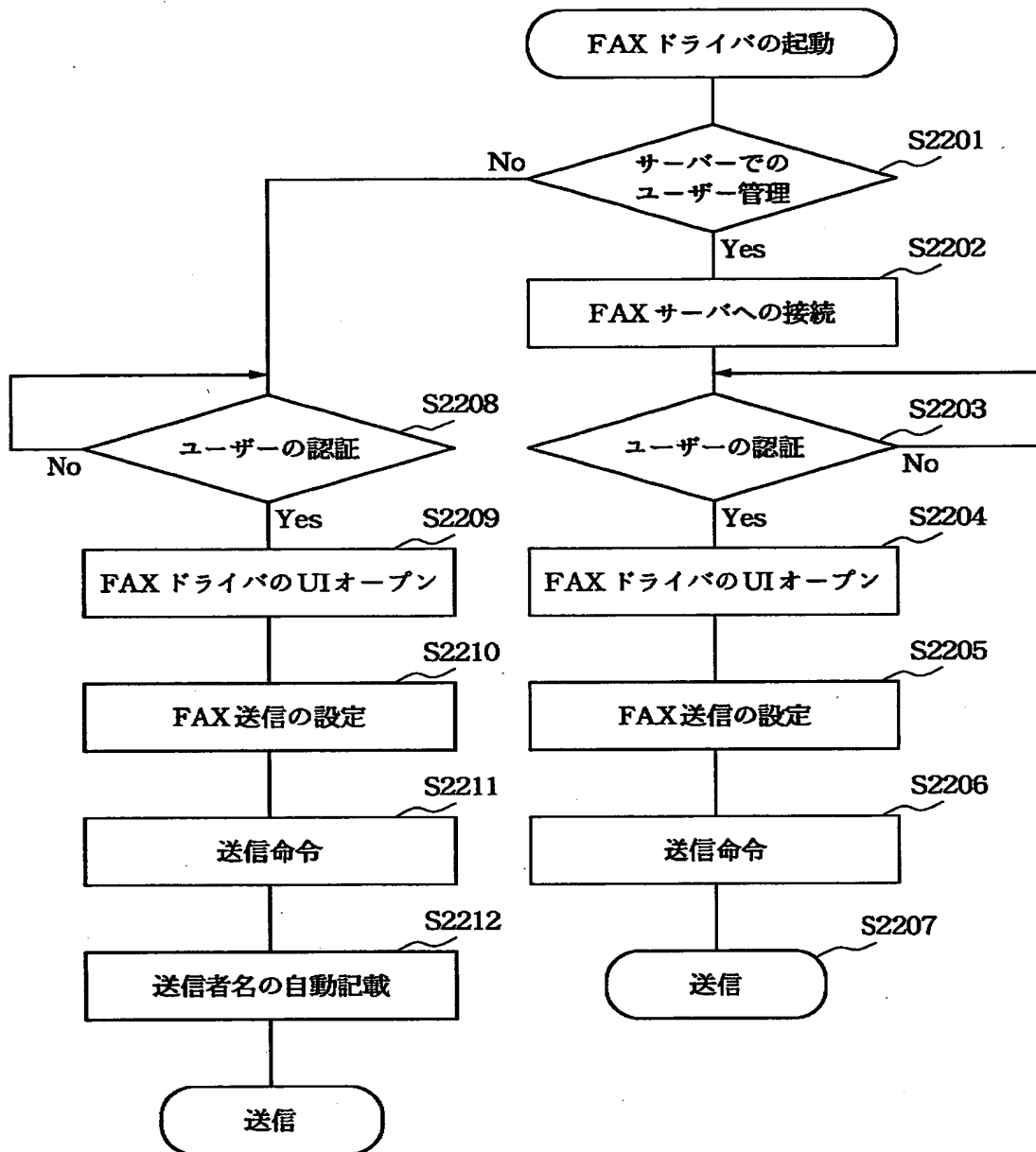


【図 2 1】

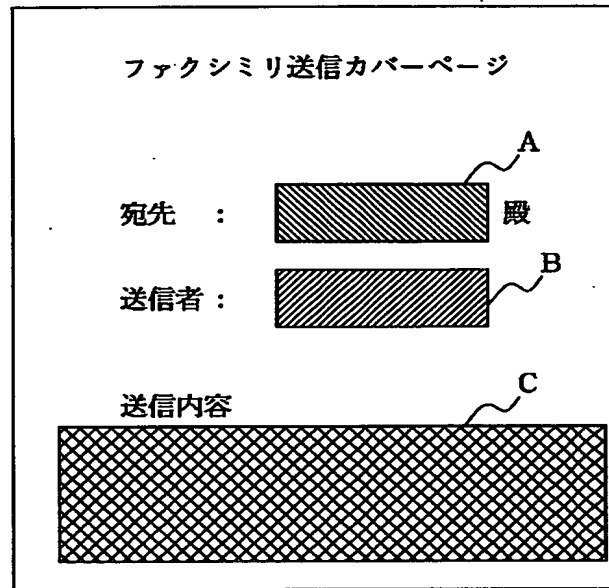




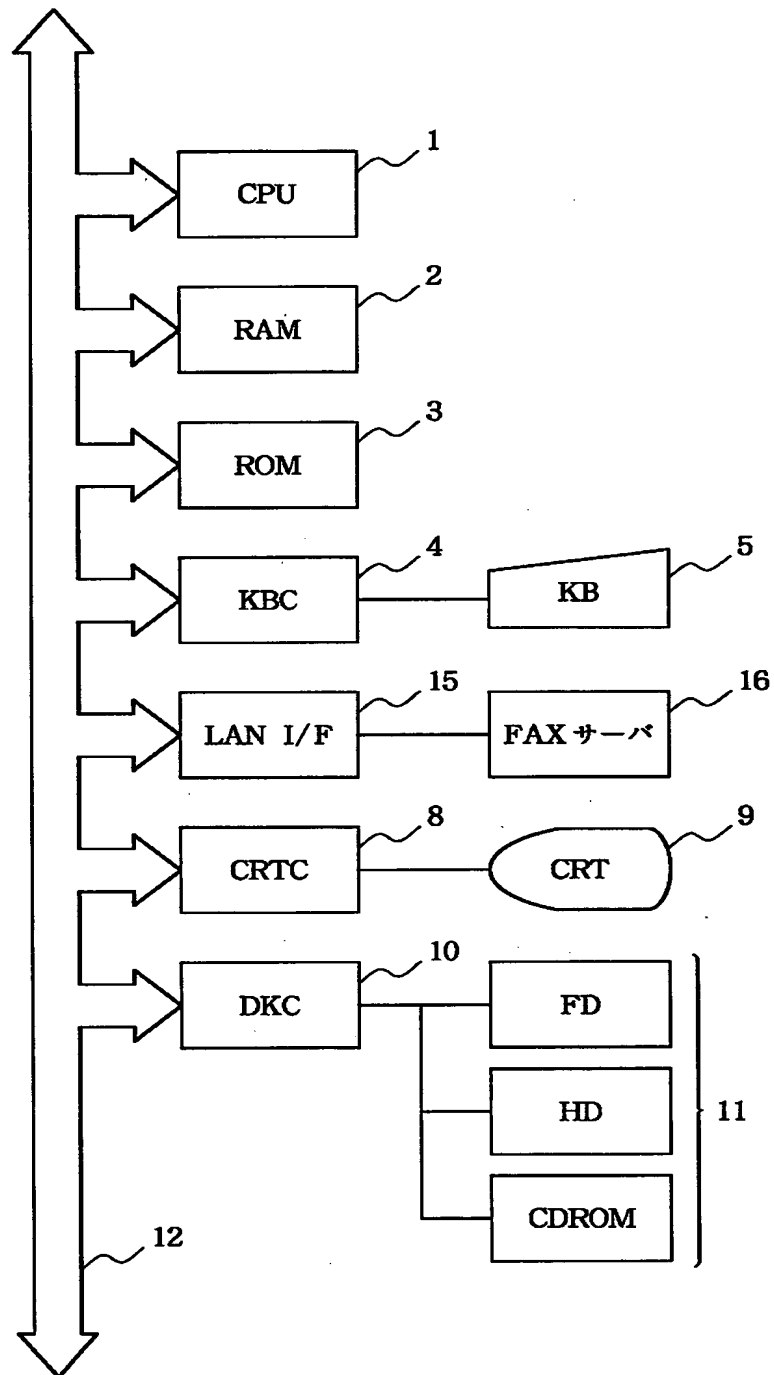
【図 22】



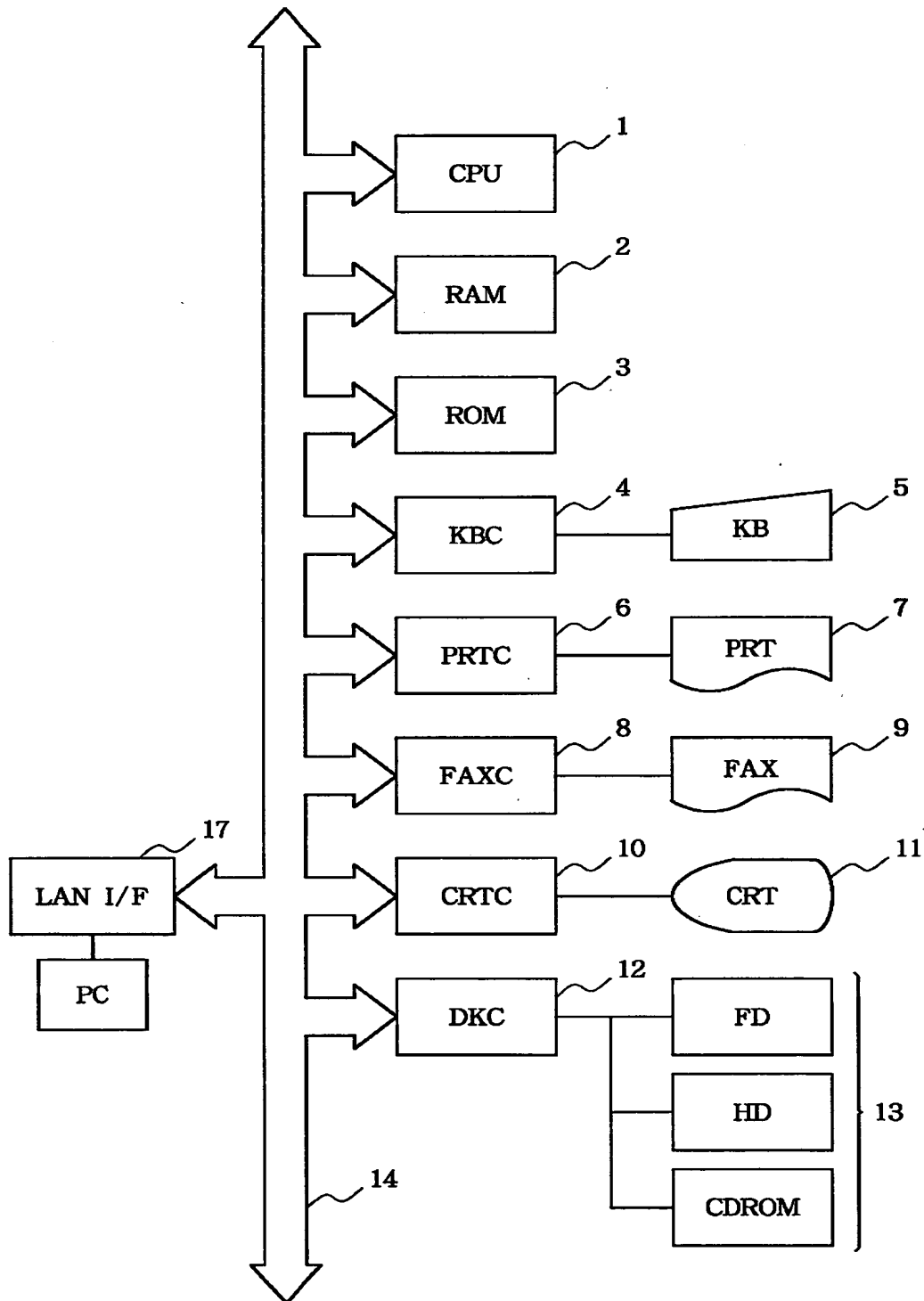
【図 23】



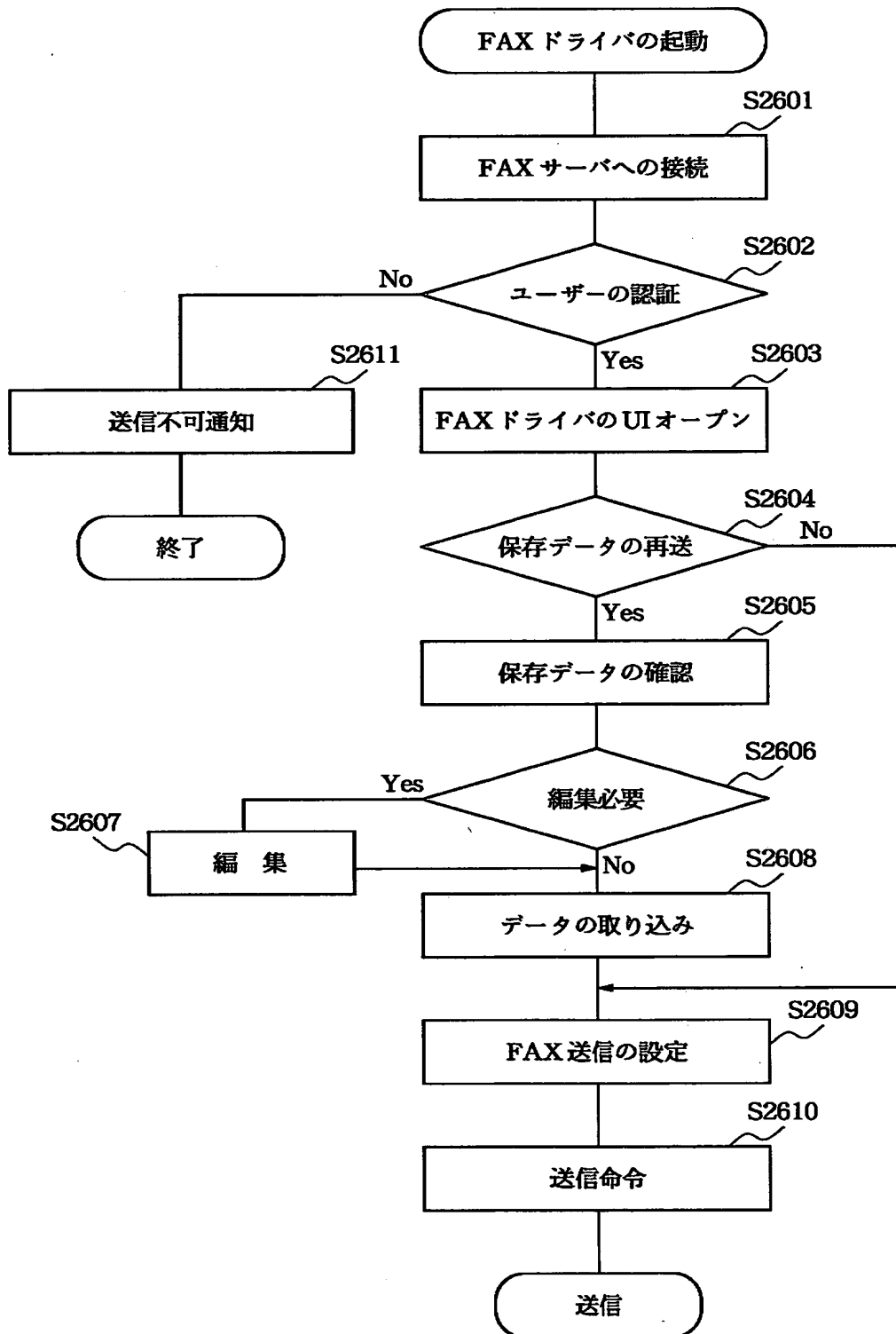
【図24】



【図 25】



【図 26】



【書類名】            要約書

【要約】

【課題】    共有して使用されるファクシミリ装置等の通信装置の使用制限を行う

。また、他人になりすまされて、原稿等のデータが送信されてしまうことを防止する。

【解決手段】    原稿を送信する際にユーザの認証を行い、その結果に応じて原稿の送信を行うようにする。

また、そのとき原稿にユーザの認証に使用したユーザを特定する情報に対応した送信者名等の情報を付加するようにする。

【選択図】            図 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社